

令和4年度 シラバス（公民）

学番 28 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校

教科	科目	単位数	教科書名	副教材名等
公民	公共	2	公共（実教出版）	フォーラム公共 2022 （とうほう）

1 学習目標

到達目標、 具体的な取り組み 及び留意点	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
授業形態及び 履修条件等	1年次の必修科目

2 学習計画

月	指導単元	指導内容	考查及び 評価方法	時 数	評価の ポイント
4	第1部 公共の扉 第1章 社会を作る私たち	1 青年期とは 2 自己形成の課題（1） 3 自己形成の課題（2） 4 職業生活と社会参加 5 伝統・文化と私たち	第1回考查	6	考查の素点 提出課題 ノート提出
	第2章 人間としてよく生きる 第3章 他者とともに生きる 第4章 民主社会の倫理	1 古代ギリシア人の人間観 2 科学と人間 3 自由の実現 4 社会を作る人間 1 人間と幸福 2 公正な社会をめざして 1 人間の尊重と平等 2 自由・権利と責任・義務			
6	第5章 民主国家における基本 原理	1 民主政治の成立 2 民主政治の基本原則 3 民主政治のしくみと課題 4 世界の主な政治制度	第2回考查	7	考查の素点 提出課題 ノート提出
	第2部 よりよい社会の形成に 参加する私たち 1 現代の民主政治と日本国憲法 第1章 日本国憲法の基本的 性格	1 日本国憲法の成立 2 日本国憲法の基本的性格 3 自由に生きる権利 4 平等に生きる権利 5 社会権と参政権・請求権 6 新しい人権 7 人権の広がり と 公共の福祉			

7	第2章 日本の政治機構と政治参加	8 平和主義とわが国の安全 9 こんにちはの防衛問題 1 政治機構と国会 2 行政権と行政機能の拡大 3 公正な裁判の保障 4 地方自治と住民福祉	第3回考査	7	考査の素点 提出課題 ノート提出
9	2 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会	5 政党政治 6 選挙制度 7 世論と政治参加 1 経済主体と経済活動の意義 2 経済社会の変容 3 市場のしくみ 4 市場の失敗 5 現代の企業		8	
10		6 国民所得 7 経済成長と国民の福祉 8 金融の役割 9 日本銀行の役割 10 財政の役割と租税 11 日本の財政の課題	第4回考査	7	考査の素点 提出課題 ノート提出
11	第2章 日本経済の特質と国民生活	1 戦後日本経済の成長と課題 2 転機に立つ日本経済 3 経済社会の変化と中小企業 4 農業と食糧問題 5 消費者問題		7	
12		6 公害の防止と環境保全 7 労働問題と労働者の権利 8 こんにちはの労働問題 9 社会保障の役割 10 社会保障制度の課題	第5回考査	7	考査の素点 課題提出 ノート提出
1	3 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向と課題	1 国際社会と国際法 2 国際連合と国際協力 3 こんにちはの国際政治 4 人種・民族問題 5 軍拡競争から軍縮へ 6 国際平和と日本の役割		7	
2	第2章 国際経済の動向と課題	1 貿易と国際収支 2 外国為替市場のしくみ 3 第二次世界大戦後の国際経済 4 地域的経済統合の進展 5 国際経済のつながりと課題 6 発展途上国の諸課題と日本の役割		6	
3	第3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	持続可能な社会をめざして		1	課題提出

計 70 時間(50 分授業)

*生徒の進路・関心を配慮しながら、各担当者が重点を置く単元を選択する場合もある。

3 指導の重点

- ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

4 課題提出物等

- ・定期テストの際に課題を提出。
- ・定期テストの後に板書事項をまとめたノートを提出。

5 評価の規準と評価方法

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
以上の観点を踏まえ、定期テスト・提出物・授業への取り組みなどを考慮して総合的に評価します。		

6 担当者からの一言

現実社会についての知識や理解を深めるためには、TVや新聞等で報じられるニュースにふれることも重要です。マスメディアを通じて得られる情報を、授業で学んだことに基づいて、自分で考えることにより理解を深めることができます。

毎日の新聞には目を通すとともに、ニュースや「クローズアップ現代」のような時事問題の解説番組の視聴が望ましい。